

大会名 Competition	平成24年度 第23回東北高等学校 男女新人バスケットボール選手権大会
NO. 115	Year Month Day Time 2013 年 2 月 3 日 14 : 00
場 所 Place	秋田市立体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チーム A		チーム B
明 成	(21 1st 18 19 2nd 11 21 3rd 16 29 4th 18 OT)	能代工業
90 ○		63 ●

主審:Referee 平林 達哉 (福島)
副審:1stUmpire 成田 康平 (青森)
副審:2ndUmpire 佐藤 匠 (秋田)
テーブル・オフィシャルズ:Table officials
秋田県立秋田南高等学校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	✓	金子 大 希		3	1	0	0	1	4	×	松 本 大 河	cap	9	0	3	3	4
5		池 田 峻 輔		-	-	-	-	-	5	×	佐々木 健 登		10	0	4	2	4
6	×	植 村 哲 也		13	2	3	1	3	6		安 保 友 貴		-	-	-	-	-
7	×	森 川 文 弥		4	0	2	0	2	7	×	小田桐 匡 志		19	2	6	1	-
8	✓	阿 部 元 樹		0	0	0	0	-	8	✓	湊 俊 樹		2	0	1	0	-
9	✓	築 井 良 知		4	0	1	2	-	9	×	砥 綿 啓 伍		12	0	5	2	5
10	×	白 戸 大 聖		30	4	7	4	-	10		佐 藤 正 輝		-	-	-	-	-
11	×	宮 本 滉 希	cap	29	0	11	7	2	11		渡 邊 竜 也		-	-	-	-	-
12	✓	柳 川 知 之		2	0	1	0	-	12	✓	三 根 一 求		0	0	0	0	-
13	×	松 本 健 寛		5	0	1	3	1	13	×	長谷川 暢		6	0	3	0	2
14									14	✓	猪 狩 涉		3	1	0	0	-
15		高 柳 紗 万		-	-	-	-	-	15	✓	荒 木 直		2	0	1	0	2
16		高 橋 悠 真		-	-	-	-	-	16		幸 崎 竜 馬		-	-	-	-	-
17		三 橋 幸 太		-	-	-	-	-	17		水 木 隼		-	-	-	-	-
									18		児 玉 璃 生		-	-	-	-	-

コーチ 佐 藤 久 夫
Aコーチ 志 村 高 宗
合 計

90 7 26 17 9

コーチ 佐 藤 信 長
Aコーチ 平 山 智 哉
合 計

63 3 23 8 17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は2年連続4回目の優勝を狙う明成高校と、4年ぶり15回目の優勝を狙う地元能代工業の対戦となった。両チームともにマンツーマンでのスタート。先制したのは明成。#6植村がリバウンドからゴール下のシュートを決める。さらに明成は#11宮本がリバウンドからのシュートを決め、4-0と先行する。高さに勝る明成に対して能代工業は速さと全員でのリバウンド、#7小田桐の速攻を中心としたオフェンスで対抗する。しかし、能代工業の果敢なゴール下へのカットインは明成の厳しいディフェンスに阻まれる。その間明成はゴール下の確率の高いシュートで加点。終盤、能代工業が持ち前の厳しいディフェンスからの速攻を見せ21-18と3点差として第1ピリオドを終了する。

第2ピリオドは、序盤から試合が動く。開始早々に能代工業#4松本が3ファウルでベンチに下がると能代工業のオフェンスのリズムが狂う。攻めあぐむ能代工業に対して、明成は着実に加点。ゴール下、外角シュートとバランスよくシュートを沈める。残り5分能代工業はディフェンスを2-3のゾーンディフェンスに切り替え、リバウンドを確実に獲得する。しかし、思うように加点できない展開が続く。じわじわと点差を広げた明成が40-29と11点リードでの折り返しとなった。

迎えた第3ピリオドは明成#10白戸のカットインシュートから始まる。能代工業は#5佐々木の速攻、#4松本のバスケットカウントとなるシュートが決まり、追い上げムードが高まる。だが、明成#6植村の3Pシュートがその流れを断ち切る。その後も能代工業が何度か波に乗りかけるが、その都度明成が#10白戸の3Pシュートなどでその流れを冷静に止める。残り3分17秒、この試合最大となる15点差となった所で能代工業はタイムアウトを取る。タイムアウト明け、スティールからの速攻で#7森川が速攻を決め能代工業に大きなダメージを与える。その後も能代工業は、上手く点差を詰められず、明成がこのピリオドでも点差を広げ61-45と16点差とした。

最終ピリオド、追いつきたい能代工業は#5佐々木、#15荒木らがリバウンドに絡むもマイボールにすることが出来ない。対する明成は落ち着いた試合運びで、能代工業のプレスディフェンスをかいくぐりシュートを沈める。結局差はつまずかず、90-63で明成高校が2連覇を飾った。